

令和4年度 第2回社会教育委員会議

日時 令和4年10月25日(火) 10:00~12:00

場所 北九州市立生涯学習総合センター3階 ホール

1 市民文化スポーツ局局长あいさつ

2 議題

(1) 議長・副議長の互選について [資料1]

(2) 北九州市生涯学習推進計画(令和3年度評価)について [資料2]

(3) 協議テーマに関する意見交換 [資料3・参考資料1]

ア 事例発表

「市民講座『ともがき』講座から市民活動への展開～市民活動者を育て・つなげて地域を活性化する館長の取組みについて～」

① 動画視聴

② 館長へのインタビュー

※「健康」に関する取組みは、次回の第3回社会教育委員会議で取り上げます。

(前回のグループワークで課題として挙げられた「つながらない人とどのようにつながるのか」、さらに「若い人の参加が大切である」というご意見を踏まえ、先進事例として、西門司市民センターの渡辺館長の取組みをご紹介します。)

イ グループワーク(20分を予定)

テーマ: 地域づくり・人づくりにつながる「館長の役割」について

ウ まとめ

資料1

議長・副議長の互選について

北九州市社会教育委員会議関連法規

社会教育法

(審議会等への諮問)

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和三十二年法律第二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。

(社会教育委員の構成)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

(1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。

(2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。

(3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令

(社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準)

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第18条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとする。

北九州市社会教育委員条例（平成27年7月3日公布、8月29日施行）

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条第1項の規定により、市に社会教育委員（以下「委員」という。）を置く。

第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから委嘱する。

第3条 委員の定数は、15人とする。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 委員は、その事情により、任期中であっても解嘱することができる。

北九州市社会教育委員会議規則

第1条 社会教育委員の会議には、委員の互選により、議長および副議長2人をおく。

第2条 議長および副議長の任期は1年とする。ただし、再選されることができる。

第3条 議長は、社会教育委員の会議を主宰する。

第4条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるとき、または、議長が欠けたときは、その職務を行う。

第5条 委員の会議は、必要に応じて教育委員会がこれを招集する。

第6条 会議の招集は、開会の7日前までにこれを通知しなければならない。

第7条 教育委員会は、会議開催の日時、場所および会議に付議すべき事件をあらかじめ通知しなければならない。

第8条 この規則に定めるもののほか、社会教育委員の会議に関し必要な事項は、別に定める。

資料2

**北九州市生涯学習推進計画
(令和3年度評価) について**

北九州市生涯学習推進計画の評価について

(1) 基本的な考え方

令和3年に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」（以下、現計画という。）に掲載された施策及び事務事業を対象として、「令和3年度」の進捗状況を、策定時に設定した指標等に基づいて、有効性などの視点から点検・評価し、施策及び事務事業の今後の推進に活用する。

(2) 評価の方法

ア 評価の実施範囲

【施策】 現計画を構成する3施策

【事務事業】 167事業（再掲事業を除く）

イ 評価の視点及び表示

(ア) 施策ごとの評価

指標の達成状況、モニタリング項目の推移及び施策の実績・成果・有効性、構成事務事業の進捗状況を踏まえ、評価する。

A：大変順調 B：順調 C：やや遅れ D：遅れ

令和3年度評価	施策
B	柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり
C	柱2 「学び」と「活動」による人づくり
B	柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

(イ) 施策の指標評価

計画策定時に3施策ごとに指標及び令和7年度の目標値を設定。年度毎に、目標に向けて設定した参考値に対する達成率に基づき、4段階評価を行う。

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上）

C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

※指標については、今後、生涯学習を取り巻く社会状況の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこととする。

(ウ) 事務事業の進捗状況

各事務事業の実施状況、事業の有効性、効率性、前年度実績との比較等を、総合的に判断して、次の4段階評価を行う（現計画では目標値等は設定していない）。

a：大変順調 b：順調 c：やや遅れ d：遅れ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、評価できない場合は、評価欄に「－」を記載

※指標の評価基準の変更

前計画は行政評価の評価基準に基づき評価を実施。A・B評価が多くなる傾向となるため、現計画から上記の評価基準へ変更する。

※参考：行政評価の評価基準（成果指標の達成率を基準に評価）

原則として、

120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

1 全体評価

令和3年度	<p>(1) 指標となっている市政モニターアンケートでは、「生涯学習の情報を取得できている人の割合」については、対前年比113.3%と高い伸び率を示している反面、実際に「過去1年間に学習活動した人の割合」は前年度の48.9%から45.9%に減少した。</p> <p>(2) 指標の生涯学習関連施設の利用者数は対前年比121.0%と大きく回復し、モニタリング項目からも施設の利用者数や各種講座等の開催数、参加者数が前年度より増加しているものが多く、復調傾向にあることがわかる。</p> <p>(3) 主要事業の進捗状況も概ね順調である。</p> <p>以上のことから、まだ新型コロナウイルス感染症前の状態にまでは回復しておらず、指標の目標への過程としても不足している項目があるものの、学習意欲が高くなり、「学び」と「活動」に参加する方は増加してきているため、総体的には「B 順調」とした。</p> <p>今後は、講座の内容や実施方法、周知方法を工夫するなど、学びに参加しやすい環境づくりを行うとともに、活発な活動に結び付くような制度の見直しやより効果的な活動のマッチング方法を検討していく。</p>
B 順調	

2 指標等



◎指標

評価	指標		現状値					参考		目標
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
A	生涯学習の情報が取得できている人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			39.8%	42.3%	44.9%	47.4%	50%	
		実績	37.2%	42.2%	45.1%					
		達成率			113.3%					
C	過去1年間に学習活動した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			59.5%	62.1%	64.8%	67.4%	70%	
		実績	56.9%	48.9%	45.9%					
		達成率			77.1%					
C	学習活動に満足している人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			89.8%	91.1%	92.4%	93.7%	95%	
		実績	88.5%	87.9%	75.5%					
		達成率			84.1%					
A	生涯学習関連施設の利用者数 《北九州市調査》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
		実績	14,033 千人	6,238 千人	7,546 千人	千人	千人	千人		
		達成率			121.0%					

A : 大変順調 (100%以上) B : 順調 (90%以上)
 C : やや遅れ (70%以上) D : 遅れ (70%未満)

◎モニタリング項目

全18項目中  10項目  2項目  5項目  1項目

推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	○生涯学習という言葉を知っている人の割合	95.5%	98.5%				
	○まナビネットひまわりアクセス件数	13,502件	9,610件				
	○いきがい活動ステーションの利用者数	1,042人	2,438人				
	○生涯学習総合センター学習相談件数	12件	59件				
	○市民カレッジ受講者数	529人	721人				
	○市民カレッジ受講者の満足度	99.1%	99.0%				
	○市立図書館（ひまわり文庫を除く）における市民一人当たりの貸出冊数	2.5冊	3.2冊				
	○障害者芸術祭作品展の出展数	203品	260品				
	○障害者スポーツ教室・障害者スポーツ大会の参加者数	775人	766人				
	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の開催回数	73回	72回				
	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の参加人数	402人	610人				
	○外国人が日本語や日本の生活習慣を学ぶための地域の日本語教室の開催箇所数	17教室	17教室				
	○生涯学習市民講座のうち「共生のまちづくり」を学習目標とした講座数	107講座	123講座				
	○北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ各領域の履修生数		37人				
	○「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」と回答した人の割合	63.3%	59.5%				
	○人材バンク登録者数	223人	209人				
	○人材バンク依頼件数	8件	9件				
	○人材マッチング事業実施件数	75件	226件				

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

具体的な施策	番号	← 計 画 →		← 実 施 →						← 評 価 ・ 方 向 性 →					
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状 況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
								実績値	実績値		実績値	実績値			
(1)「学び」と「活動」の 情報提供の拡充 ①「学び」と「活動」の 一元的な情報提供	1	「まなびネットひまわり」(管理運営)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	218 の一部	200 の一部	活動(ボランティア、NPO)の情報や市内の大学の情報とリンクさせるなど一元的な情報の提供など、ホームページのリニューアルに向けた取組みを行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	13,502 件	9,610 件	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	48.9%	45.9%	b:順調	成果指標である「過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)」の達成率は前年度実績を僅かに下回ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を考慮して「順調」と判断。	様々な講座情報、講師情報のほか、活動情報など幅広く多くの情報を掲載し、加えて「まなびネットひまわり」をあらゆる機会を捉えて広報することで、利用者及びアクセス件数の増加に努める。
	2	高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	8,834	8,834	《実績》 平成28年9月より小倉北区魚町へ移転した、いきがい活動ステーションにて実施 令和3年度利用者数:2,438人	利用者数	1,042人	2,438人	利用者アンケート満足度	-	100%	b:順調	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前に比べて利用者数が少ない状況ではあるが、アンケート結果(満足度)が良好であったため「順調」と判断した。	引き続き利用の状況等を見ながら、リモートを活用するなど、高齢者の社会貢献やいきがいづくりの推進を行う。
	3	生涯学習総合センターだより「まいなび21」の発行	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	288	288	年4回、各3,500部発行	発行部数	14,000 部	14,000 部	年間発行回数	4回	4回	a:大変順調	発行部数・回数とも目標を達成できた。	発行部数・回数については、特に問題ないことから昨年度と同様としたい。 内容については、読者のニーズを踏まえ、読者投稿の募集や、他の生涯学習施設の事業紹介など引き続きアップデートを行う。
(2)気軽に相談できる 体制づくり ①「学び」の相談 体制づくり	4	生涯学習総合センター学習相談事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	予算措置 なし	予算措置 なし	相談対応件数:59件	学習相談事業の相談件数(延べ相談者数)	12件	59件	相談者の相談内容に対する問題解決率	100%	100%	a:大変順調	令和3年度後半から、施設ボランティア(学びサポーター)による「パソコンなんでも相談」を毎週実施(以前は隔週)したことから相談件数が大幅に増加した。	相談者のニーズを的確に反映できるよう、引き続き、相談体制の検討や情報収集に努める。
(3)多様な「学び」の機会 の提供 ①「学び」のきっかけ づくり	5	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	187,408 の一部	181,969 の一部	《実績》 令和3年度受講者数:818人	年間コース実施数	30件	30件	総合的な満足度	97.0%	96.0%	b:順調	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況ではあるが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を目指す。
						年間コース受講者数	543人	818人							
	6	生涯学習市民講座の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	10,055	8,622	市民講座数 835件 市民講座参加者数 56,844人	生涯学習市民講座数	687件	835件	生涯学習市民講座参加者数	44,429 人	56,844 人	b:順調	コロナ禍において、オンラインのツールや動画配信等の活用、感染予防対策への積極的な取り組みの結果、講座数、参加者数ともに増加したため。 また、オンラインツールや動画配信を活用した講座を実施できるよう、市民センター館長・職員等の研修を充実させる。	より地域の特色を生かした講座、地域課題解決に向けた講座となるよう市民センター館長研修の充実を図り、多くの方に多様な学習機会を提供していく。
	7	ESD推進事業	環境局 環境学習課	20,301	19,174	新型コロナウイルス感染症の影響により、まなびとESDステーションが臨時休館になったり様々なイベントや対面での会議が中止になったりして、事業が実施できないこともあった。	活動団体登録数	82件	85件	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合 ※ 令和元年度より成果指標を「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合に変更	84.2%	80.2%	b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントや対面での会議が実施できないこともあったが、そのような中で、オンラインでの会議や講演会を積極的に進め、新たな方法での事業を実施したことから、「順調」と判断した。	持続可能な社会づくりを意識して行動する市民が増えるように、昨年度策定した「北九州ESDアクションプラン2021～2025」を基に、ESD活動の継続・強化を行う。
8	北九州市民カレッジ事業	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	4,710 (八幡西総合含む)	3,292 (八幡西総合含む)	前期11講座、後期25講座実施(高等教育機関提携コース含む)	講座数	26件	36件	受講者数	529人	721人	a:大変順調	新型コロナウイルス感染症拡大による閉館等の理由で前期17講座、後期4講座が中止となったため、令和元年度以前と比較して受講者数がおよそ半減しているが、受講生の満足度は引き続き高い水準を維持できた。	新規受講生獲得に向けた新たな講座の検討を積極的に行う。 また、地域力アップセミナーなど人材育成につながる講座においては、現在の課題に即した内容へのアップデートを行っていく。	
					受講者の満足度	99.1%	99.0%								

具体的な施策	番号	← 計 画 →				← 実 施 →						← 評 価 ・ 方 向 性 →			
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状 況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
								実績値	実績値		実績値	実績値			
(続き) ①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実	9	北九州ひとみらいプレイスの充実	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合センター	3,869	2,178	1 ひとつくり支援事業 (1)グローバル人材育成事業 パネル展を除き、4事業実施。 参加者計387名 (2)若者支援事業 新型コロナウイルス対策のため、オンラインで実施。 参加者57名。 2 連携事業「気ままにセミナー」 新型コロナウイルスや講師の都合で中止になったものを除き6講座実施。 受講者計137名。 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流ウィーク」 期間 令和3年11月15日～21日 参加者 40,515名(関連事業も含める)	北九州ひとみらいプレイス 11施設の集客人数	31万人	43万人	北九州ひとみらいプレイスで実施する講座、セミナー等の満足度	98.5%	99.0%	b:順調	11施設の集客人数は、新型コロナウイルスの影響で施設が使用できない期間があったものの、前年度を上回る集客があったことは評価できる。 ひとみらい交流ウィーク集客状況は、黒崎子ども商店街が開催されたこともあり、コロナ前の基準に近い集客があった。 講座・セミナー等の満足度については、既に高い数値であった前年を上回る結果となった。	ひとみらいプレイス構成団体間との連携強化を図り、若年層を呼び込むことのできる事業を検討したい。 また、未だ低い水準にとどまっているひとみらいプレイスの認知度向上に努めたい。
	10	デジタル活用講座	デジタル市役所推進室 デジタル市役所推進課	2,000	1,402	市民センターにて、スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する「デジタル活用講座」を実施した。 (25館×講座1回の計25回実施。受講者は計248名)	講座の実施		25回	市民のインターネット利用率	75.0%		a:大変順調	高齢者等、スマートフォン等の操作に不慣れな方を対象に講座を実施し、大多数から満足を得られたため大変順調とする。 【R3年度デジタル活用講座 アンケート結果】 満足度:まあ満足 54% (次点:満足 35%) おすすめ度:勧めたい 60% (次点:強く勧めたい 19%) 今後の受講:また受けたい 95% 理解度:だいたいわかった 46% (次点:よくわかった 32%)	R4年度も継続して、同様の講座を開催していきたい。 また、アンケートの結果等を反映し、ブラッシュアップした内容で市民のデジタル活用へのきっかけづくりに努めたい。 (令和4年度は9月から「デジタル活用講座」を市民センターで計30回実施予定)
	11	育児サークル・フリースペース活動への支援	子ども家庭局 子育て支援課	5,753	5,171	<<目的>> 乳幼児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援する。また、自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援する。 <<実績>> 補助金交付団体:97件	子育てに関わる団体等への補助件数	100件	97件	市内で活動する育児サークル等の団体数	437件	440件	b:順調	育児サークル等の団体数は3件増加した。 子育てに関わる団体への補助件数は、前年度とほぼ同数の団体で活動が継続されていることから「順調」と判断した。	子育てに関わる団体の自主的活動をさらに活発化させるため、補助件数の増加等、支援内容について継続的に検討していく。
	12	親子ふれあいルーム運営事業	子ども家庭局 子育て支援課	36,935	35,499	<<目的>> 子育て中の親と子が気軽に集い、相互に交流を図る場である親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図る。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。 <<実績>> ・箇所数 区役所等7箇所、児童館9箇所 ・利用者数(乳幼児数):20,764人	親子ふれあいルーム実施箇所数	16件	16件	親子ふれあいルーム利用者数(乳幼児数)	15,470人	20,764人	a:大変順調	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、利用定員管理等を行った。達成率が前年度比134.2%となり、乳幼児を持つ保護者の交流や、子育てへの不安軽減に寄与していることから、「大変順調」と判断。	親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修の実施やコロナ禍での運営方法等、更なる取り組みを検討していく。
	13	青少年体験活動の啓発・広報の推進	子ども家庭局 青少年課	12,627の一部	6,076の一部	①「キッズチャレンジ」の発行 ②青少年育成シニアリーダー会議「ぼんて」の開催	青少年育成シニアリーダー会議の開催回数	9件	11件	青少年育成シニアリーダー会議主催のイベント等実施回数	1件	1件	a:大変順調	体験情報冊子「キッズチャレンジ(夏号)」では、「夏休み5つのチャレンジ」と題し、チャレンジ内容を自ら考え、行動する内容のページを追加した。 青少年シニアリーダー会議については、青少年の健全育成の環境づくりに向けた協議を進めることができたほか、同会議主催のイベント等も実施した。	次代を担う青少年が社会との関わりを自覚しながら、自己を確立・向上していけるよう、青少年育成団体等と一層の連携を図り、青少年の体験活動の機会や場の創出に努める。
	14	北九州市立大学 i-Designコミュニティカレッジ	企画調整局 総務課	-	-	令和3年度は、領域「多様な世界との対話」を新たに開設し、4つの領域を開講した。 また、社会のニーズを踏まえるとともに、学内コンテンツの有効活用を図るため、データサイエンスやプログラミングに関する新領域「社会人のためのデータサイエンス基礎」を令和4年度に開設することを決定した。	i-Designコミュニティカレッジの実施		履修生数 37名				a:大変順調	一定数の履修生の人数を得ており、令和3年度の修了生の満足度は、100.0%と高評価を得ているため。	プログラムをより充実させるため、社会人のニーズを踏まえ、履修制度の見直しや柔軟な領域開講を行う。 また、広報活動の充実を図り、より多くの履修生の受け入れを目指す。
	15	社会参加講座開催事業(障害者福祉会館の指定管理事業の一部)	保健福祉局 障害福祉企画課	障害者福祉会館運営費 173,184の一部	障害者福祉会館運営費 172,485の一部	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定通り開催することが難しいこともあったが、開催方法の工夫等により、昨年度より多くの参加者を集めている。 Web会議システムを導入した講座を開催し、新しい生活様式に合わせた講座への参加方法を提供した。	講座開催回数	73件	72件	講座開催回数	73件	72件	b:順調	アンケート結果では、講座内容を「良い」「だいたい良い」と回答した利用者が98.0%と高い水準を維持しているため「順調」と判断した。	引き続き、障害のある人の自立の援助や生きがいを高める講座を開催していく。会場参加に加えて、オンラインでの参加が可能な講座を充実させることにより、講座参加者数の増加を図る。

具体的な施策	番号	計 画				実 施						評 価 ・ 方 向 性			
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状 況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
				実績値	実績値			実績値	実績値						
(続き) ②ライフステージや 多様性に応じた 学習機会の提供・ 充実	16	日本語教育体制整備事業	企画調整局 国際政策課	(公財)北九州 国際交流 協会運営補 助金36,403 の一部	(公財)北九州 国際交流 協会運営補 助金36,403 の一部	(公財)北九州国際交流協会において学習者のレベルに合わせた4つの日本語教室を運営するとともに、市内で日本語教室を運営している13のボランティア教室・団体に対する助成金の交付や意見交換会を実施した。また、技能実習生を受け入れる企業等に対し、日本語教師の派遣や受け入れ担当者向け研修を行うなど、日本語教育の推進に多角的に取り組んだ。	日本語教育に関する事業の実施 ※(公財)北九州国際交流協会が主催する日本語教室数	4教室	4教室	(公財)北九州国際交流協会が主催する日本語教室開催実績	341回	252回	a:大変順調	対面が難しいコロナ禍においても、オンラインを活用するなど柔軟な対応を行い、かつ学習者の年齢や習熟度に合わせた教室運営を行っている。	協会主催の日本語教室の円滑な運営に加え、地域日本語教室の運営支援を継続するとともに、日本語教室空白地域における新たな展開についても検討していく。また、外国人労働者向けの取り組みを推進する。
	17	障害者スポーツ教室等開催事業	保健福祉局 障害福祉企画課	障害者 スポーツ 振興事業 54,490 の一部	2,360	新型コロナウイルス感染症対策として、一部開催中止した。	障害者スポーツ教室等開催回数	47回	46回	障害者スポーツ教室等参加者数	775人	766人	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、開催したが、参加者数が減少しているため。	関係団体と連携を図るとともに、事業の周知や参加者数の拡大を図る。
	18	北九州市障害者芸術祭	保健福祉局 障害福祉企画課	障害者芸術 文化活動等 推進事業 8,155 の一部	5,200	令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、ステージイベントを実施した。また、東アジア文化都市連携事業として、ステージイベントの中で、韓国の障害者アーティスト集団「J Art Ensemble」のフィルムコンサートを実施した。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ステージイベントを中止し、作品展のみ開催。	障害者芸術祭の開催の有無	有	有	障害者芸術祭出展数	203点	260点	b:順調	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、ステージイベントを実施した。作品展の出展数は前年度から大きく増加しているため。	関係団体との連携を図り、事業の周知を充実するとともに、関連するイベントとの一体的な開催等の連携を継続し、魅力的なイベント内容とすることにより、参加者数・来場者数の拡大を図る。
	19	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	12,693 の一部	8,091	市民センターで実施。	人権市民講座実施回数	246件	257件	人権市民講座参加者数	6,413件	6,266件	c:やや遅れ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公共施設の使用制限により、人権市民講座の開催回数・参加者数ともに目標値を下回っているため「やや遅れ」と判断した。	それぞれの地域の実情に応じた人権学習の機会の提供となるようテーマや実施方法を工夫するとともに、継続した講座実施に努め、市民の人権意識醸成につなげていく。
	20	企業や地域等でのワーク・ライフ・バランスの取り組み支援	総務局 女性活躍推進課	8,005	5,677	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数(累計):83社(人) ワーク・ライフ・バランス推進に関する企業へのアドバイザー等の派遣件数(R3):30件	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数(累積)	78件	83件	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	66.2%	66.3%	b:順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数は、R2年度と同程度の実績(R2:6社→R3:5社)となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前年度に引き続き減少傾向となったが、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と家庭の調和が図られていると感じる人の割合は、令和2年度と同程度であるため、「順調」と判断。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇していくよう、引き続き、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。 また、事業の実施にあたっては、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的事業実施を検討していく。
	21	読み聞かせ・読書ボランティア養成講座	教育委員会 子ども図書館	331	132	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、5講座のうち3講座が中止となった。	読み聞かせボランティア養成講座の開催数	0回	2回	読み聞かせボランティア養成講座の受講者数	0人	28人	—	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部講座を中止したことにより、評価が難しいとした。	読書をする子どもを増やすには、大人の協力は欠かせない。子どもが読書活動に親しみ、読書の大切さを知ることができるよう、力強く支える大人を増やし、市立図書館や学校など市内で活動している読み聞かせボランティアなど読書に係るボランティアの育成、連携支援に取り組む。
22	・DIG(住民参加型災害図上訓練) ・HUG(避難所運営ゲーム)	危機管理室 危機管理課	963	57	令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、DIG及びHUG事業は中止しており、令和3年度10月より再開した。 DIGは実績なし、HUGは市民や学校向けに6回実施した。	訓練参加人数	DIG 0人 HUG 0人	DIG 0人 HUG 300人	訓練参加人数	DIG 0回 HUG 0回	DIG 0人 HUG 300人	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度途中で事業実施を一時中止としていたため。	令和4年度からは、市のホームページの更新やSNSでの広報等を通じ、DIG及びHUGの実施について周知を図っている。 また、出前講演等の機会を捉えて、引き続き広く市民に参加を呼び掛ける。	

具体的な施策	番号	← 計 画 →				← 実 施 →				← 評 価 ・ 方 向 性 →						
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状 況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
								実績値	実績値		実績値	実績値				
④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	23	学びから活動への仕組みづくり	市民文化スポーツ局 生涯学習課	617 の一部	178 の一部	令和3年度は市内の全市民センターでアンケートの実施を依頼し、80館の市民講座でアンケートを実施した結果、より多くの活動希望者を活動の場へつなぐことが出来た。 ・令和3年度マッチング成功者数:156人				活動希望者のうち、活動の場へつなぐことができた割合	14.0%	19.6%	b:順調	成果指標である「活動希望者のうち、活動の場へつなぐことができた割合」は前年度比で40%増加したため、「順調」と判断。	より多くの活動希望者を活動の場へ繋ぐことができるよう、アンケートを行う講座や活動希望者への連絡方法、活動の場への案内方法を見直すほか、アンケート実施方法のデジタル化を図るなど、より効果的なマッチング方法を検討する。	
	24	北九州ひとみらいプレイスの充実(再掲)	市民文化スポーツ局 八幡西生涯学習総合センター	3,869	2,178	1 ひとづくり支援事業 (1)グローバル人材育成事業 パネル展を除き、4事業実施。 参加者計387名 (2)若者支援事業 新型コロナウイルス対策のため、オンラインで実施。 参加者57名。 2 連携事業「気ままにセミナー」 新型コロナウイルスや講師の都合で中止になったものを除き6講座実施。 受講者計137名。 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流ウィーク」 期間 令和3年11月15日～21日 参加者 40,515名(関連事業も含める)	北九州ひとみらい プレイス 11施設の集客人数	31万人	43万人	北九州ひとみらいプレイスで実施する講座、セミナー等の満足度	98.5%	99.0%	b:順調	11施設の集客人数は、新型コロナウイルスの影響で施設が使用できない期間があったものの、前年度を上回る集客があったことは評価できる。 ひとみらい交流ウィーク集客状況は、黒崎子ども商店街が開催されたこともあり、コロナ前の基準に近い集客があった。 講座・セミナー等の満足度については、既に高い数値であった前年を上回る結果となった。	ひとみらいプレイス構成団体間との連携強化を図り、若年層を呼び込むことのできる事業を検討したい。 また、未だ低い水準にとどまっているひとみらいプレイスの認知度向上に努めたい。	
(4)学びと活動の場づくり	①学んだ成果を生かす仕組み	25	「まなびネットひまわり」(講師登録及び依頼)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	218 の一部	200 の一部	令和3年度新規人材バンク登録者数:11件 令和3年度人材バンク依頼件数:9件	まなびネットひまわりへのアクセス数	13,502 件	9,610 件	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	48.9%	45.9%	b:順調	成果指標である「過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)」の達成率は前年度実績を僅かに下回ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を考慮して「順調」と判断。	まなびネットひまわりをあらゆる機会を捉えて周知することで、多くの人に講師として登録してもらい、その講師を活用していただくことで、地域の生涯学習活動を推進する。
		26	市民センタークラブ	市民文化スポーツ局 生涯学習課	予算措置 なし	予算措置 なし	クラブ登録数 4,284(R4.4.1現在)				地域社会の発展に向けた貢献	100.0%	100.0%	b:順調	市民センタークラブ数は、新型コロナウイルスの影響による活動制限等で減少しているものの、全市民センターで活動ができています。	コロナの感染症拡大や、クラブ員の高齢化等により、クラブ数が減少している中、生涯学習市民講座等を受講された方々がその後、クラブとして発足するよう事業の充実、また、より活発な活動に繋がるような制度の見直しを検討する。
	②生涯学習関連施設の整備	27	美術館企画展充実事業	市民文化スポーツ局 美術館	107,544	104,299	R3年度は新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、予定どおり事業を実施できた。	展覧会開催回数	45件	65件	美術館入館者数	93,479 件	126,264 件	b:順調	R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休館や開催中止により実績が減少したが、R3年度は感染対策を十分に行いながら事業を実施することができ、入場者数も回復した。	「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者数の増加につなげたい。
		28	博物館企画展・特別展充実事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	52,600	48,285	特別展5回、企画展14回実施した。	企画展・特別展入館者数	20,612 人	74,309 人	博物館総入館数	137,736 件	241,736 件	b:順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、休館期間もあったが、特別展は5回開催することができ、入館者数は例年に及ばないものの、回復傾向にあり、順調と判断した。	今後も新規の来館者や団体客、リピーターを増やせるよう魅力ある特別展や企画展を実施し、効果的な広報PRを行う。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

1 全体評価

令和3年度	<p>(1) 指標の「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と希望する人の割合は、対前年比約12ポイント増加しているが、実際にボランティアに登録している人数や地域活動に参加した人の割合は前年度より減少し、「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」人の割合も30.1%にとどまっている。</p> <p>(2) モニタリング項目でも、新型コロナウイルス感染症で中止していた講座の再開などで育成人数が増加したものが一方、前年度より登録数が減少している項目などがある。</p> <p>(3) ただし、主要事業は概ね順調である。</p> <p>社会貢献活動への意欲の高まりが見られることや子育てサポーター登録数、地域防災の新たな担い手の育成数の増加など順調な部分もあるが、ボランティア登録人数の減少など全体的に遅れが見られる部分も少なくないため、総体的には「C やや遅れ」と評価した。</p> <p>今後は、オンラインを活用するなど工夫しながら、人材養成・資質向上を図り、活動の場の拡充や活躍の仕組みづくりを強化していく。</p>
C やや遅れ	










2 指標等

◎指標		現状値	参考					目標	
評価	指標	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
C	ボランティア登録人数 《北九州市調査》	参考値		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
		実績	22,858	19,497	17,075				
		達成率			87.6%				
D	地域活動に参加した人の割合 《北九州市調査》	参考値		46.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50%	
		実績	42.1%	33.9%	32.0%				
		達成率			69.6%				
A	「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値		87.7%	89.5%	91.4%	93.2%	95%	
		実績	85.9%	81.7%	93.5%				
		達成率			106.6%				
C	「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値		34.5%	38.4%	42.2%	46.1%	50%	
		実績	30.6%	37.5%	30.1%				
		達成率			87.2%				

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上）
C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全12項目中  7項目  3項目  0項目  2項目

推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	○ボランティア大学の研修の受講者数	2,174人	1,781人				
	○地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人				
	○新しく健康づくり推進員になった人数	コロナにより養成講座中止	99人				
	○子育てサポーター登録者数	1,425人	1,508人				
	○子育てサポーターリーダー配置割合	68.5%	73.0%				
	○新規設立NPO法人数	12法人	14法人				
	○ボランティア登録団体数	616団体	537団体				
	○地域づくりのリーダー育成につながるセミナー受講者数(合計)	21人	46人				
	地域力アップセミナー 受講者数	21人	20人				
	女性リーダー国内研修 受講者数	0人	13人				
	生涯学習指導者育成セミナー 受講者数	コロナにより中止	13人				
	○年長者大学校修了生の地域活動への参加状況	50.0%	調査前				
	○生涯学習推進コーディネーター配置割合	46.2%	50.8%				
	○ボランティアコーディネーターによるコーディネートした件数	2,150件	2,690件				
	○新しく地域学校協働活動推進員(旧地域コーディネーター)になった人数	38人	10人				

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

具体的な施策	番号	計 画				実 施						評 価 ・ 方 向 性			
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標		成果指標	R2年度		R3年度 進捗状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
							R2年度 実績値	R3年度 実績値		R2年度 実績値	R3年度 実績値				
(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成	29	みんな de Bousai まちづくり人材育成事業	危機管理室 危機管理課	12,306 の一部	4,968 の一部	令和3年度の、北九州市立大学の防災科目履修者は104名。東京大学特任教授である片田敏孝氏を講師とした公開講座についてはオンライン形式で実施した。	地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人	地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人	a:大変順調	大学のオンライン設備を活用するなどし、前年度に引き続き防災科目履修生が104名と目標値である60名を超え達成したため。	今後も地域防災を担う新たな人材育成をするため、大学と協議し事業を継続していく。
	30	子育てネットワークの充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	666	663	・子育てサポーター:1,508人 ・子育てサポーターリーダー:208人 ・子育てサポーター新規登録者数:128人	子育てサポーター養成講座の実施	中止	実施	子育てサポーター登録者数	1,425人	1,508人	b:順調	成果指標の「子育てサポーター登録者数」が前年度比で105.8%、「子育てサポーターリーダー登録者数」が前年度比で106.1%増加したため、「順調」と判断した。 ※令和元年度より、子育てサポーターリーダーの登録については、2年に1度実施している。	子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、子育てサポーターが活躍できる講座や活動の場を拡充するなど、活動の充実を図る。
	31	ボランティア活動促進事業	保健福祉局 地域福祉推進課	34,904	34,252	北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターが実施する福祉教育事業やボランティアネットワーク事業に補助を行った。	ボランティア活動に関する相談件数	21,620	25,089	ボランティア登録団体数	616	537		b:順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア登録団体数及びボランティア人口は減少したものの、ボランティアの育成、活動支援、コーディネート等を実施し、ボランティア活動の促進が図られているため、「順調」と判断。
	32	社会福祉ボランティア大学校運営事業	保健福祉局 地域福祉推進課	31,381	31,380	社会福祉ボランティア大学校において、ボランティア・市民活動の担い手の養成を行った。今年度は、新たに「子育て支援ボランティア」を実施し、子ども食堂等へのボランティア活動へ繋げる成果を得た。	ボランティア大学校の研修・講習の開催回数	53	42	ボランティア大学校の研修受講者数(単年度)	2,174	1,781	c:やや遅れ		ICTを活用した研修の開催や、ボランティア・市民活動の担い手を養成するための講座を開催した。また、新たな社会問題に対応する講座の開催や、研修受講者をボランティア活動の登録につなげる等の成果はあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修受講者数は減少したため「やや遅れ」と判断。
	33	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)(再掲)	保健福祉局 長寿社会対策課	187,408 の一部	181,969 の一部	《実績》 令和3年度受講者数:818人	年間コース実施数	30件	30件	総合的な満足度	97.0%	96.0%	b:順調	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況ではあるが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断した。	事業を継続し、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを促進するとともに、高齢者の学習機会の提供の充実を図る。また、修了生の地域活動への参加促進を目指す。
	34	NPO・市民活動促進事業	市民文化スポーツ局 市民活動推進課	17,709	16,939	緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、サポートセンターの利用者数は大きく減少したものの、講座についてはオンライン参加も可能なハイブリット型として講座実施の維持に務めた。	講座実施数	13	18		新規設立NPO法人数(累計)	12		14	b:順調
	②地域リーダーの発掘・育成	35	地域力アップセミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	4,710 の一部	3,292 の一部	受講者数20名 全10回(6/22~9/28)実施	受講者数	21名	20名	受講者の満足度	100.0%	100.0%	b:順調	受講者の満足度は非常に高いが、募集定員30名に対し、受講者数は20名であったことから「順調」とする。
36		健康づくり推進員養成・活動支援事業	保健福祉局 認知症支援・介護予防センター	4,024	3,887	令和3年度は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった養成研修を、年2回実施することができた。	養成研修の実施	0人	99人	健康づくり推進員が関わる活動への参加者数の増加	139,086人	158,938人	b:順調	感染症対策を行いながら、養成研修・ステップアップ研修・スキルアップ研修等を開催することができた。また、地域での健康づくり・介護予防活動が安全に継続できている。	引き続き感染症対策を講じながら、地域での健康づくり・介護予防活動が継続できるようにする。 また、フレイル予防、高血圧予防を活動のテーマとし、それらについて学習しながら、啓発活動もおこなっている。
37		生涯学習指導者育成セミナー	市民文化スポーツ局 生涯学習課	750	750	市民の力を活用したまちづくりや生涯学習を推進するための人材の育成を目的に、高度かつ専門的な地域・技術の習得に向けた研修を行った。 令和3年度受講者数:13人	生涯学習指導者育成セミナーの実施	中止	実施	生涯学習指導者育成セミナー修了率	-	100.0%	b:順調	令和2年度については、新型コロナウイルス感染症防止のため、セミナーを中止したが、令和3年度は対面方式とオンライン方式でセミナーを実施し、終了率は100%を達成したため、「順調」と判断した。	今後も対面方式に加え、オンライン方式を活用するなど、状況に応じてセミナーを実施する。

具体的な施策	番号	← 計 画 →				← 実 施 →						← 評 価 ・ 方 向 性 →			
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
				実績値	実績値			実績値	実績値						
(続き) ②地域リーダーの 発掘・育成	38	女性リーダー国内研修	市民文化スポーツ局 生涯学習総合センター	636	44	受講者数13名 全13回(10/1~1/27)実施 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症 拡大のため中止	国内研修応募者数		13名	研修参加者の満足度		100.0%	a.大変順調	研修参加者の満足度は非常に高く、募集定員7名に対し、受講者数は13名であったことから「大変順調」とする	幅広い層に受講してもらえよう、応募条件の緩和や宿泊研修から日帰り研修への変更など実施内容見直しを検討する。
	39	住民主体の地域づくりの促進	市民文化スポーツ局 地域振興課	1,580	210	地域づくり活動への参加者の割合 目標46% 実績32% 達成率69.6%	まちづくり専門家 派遣事業を利用した まちづくり協議会の数	33.33%	71.42%	地域づくり活動への 参加者の割合	42.1%	33.9%	b.順調	コロナ禍により地域活動自体が減少しているため、地域づくり活動への参加者の割合は、若干減少しているが、概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくり協議会や、地域で様々な取組を行う各種地域団体等に対し、各種支援事業などの地域ニーズに応じた施策を展開する。
(2)「学び」と「活動」をつなぐ 人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」を コーディネートする 人材の発掘・育成	40	社会教育・生涯学習関係 職員研修の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課 生涯学習総合センター	[生涯学習課] 617 の一部	[生涯学習課] 178 の一部	・令和3年度市民センター館長等研修 開催回数:6回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 1回中止 ・令和3年度市民センター職員等研修会 開催回数:1回 ※感染拡大防止のためオンラインで実施	市民センター職員等 研修会参加者数	(コロナのため 参集開 催なし。 DVDを 各館に 配布)	117人	参加者の満足度	(DVD配 布のため、 アンケート 実施せず)	97.0%	b.順調	[生涯学習課] 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大 防止に努めながら、対面とオンラインのハイブリ ット方式で研修を実施したため、「b.順調」と 判断した。 [生涯学習総合センター] 当初計画していた対面での実施はできな かったものの、参加者の満足度は高いことか ら順調と評価する。	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮 し、今後もオンライン配信を利用した形式での 研修実施を検討する。 研修の中で、社会教育・生涯学習事業に関 する事例発表や市民センターの館長同士、職 員同士の情報交換を行う機会を設ける。
	41	生涯学習推進コーディネーター 配置事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	6,969	6,016	研修実施 登録数 66人 市民センターへの配置割合 50.8%	生涯学習推進 コーディネーター 研修会の実施	100.0%	100.0%	生涯学習推進コディ ネーターの配置割合	46.2%	50.8%	b.順調	生涯学習推進コーディネーター登録数が増 加し、市民センターにおける配置割合も増加 したため。	生涯学習推進コーディネーター配置の意 義、効果に加え、人材の見つけ方などを市民 センター館長に社会教育主事等が助言しな がら、配置割合の増加に向け取り組む。ま た、生涯学習推進コーディネーターを地域 の人材として育成するための研修を実施し、研 修で学んだ内容を実践につなげられるよう に支援を行う。
	42	地域学校協働活動推進員 (地域学校協働活動事業)	教育委員会 学校教育課	59,673 の一部	20,898 の一部	スクールヘルパーの活動がコロナウイルス感 染拡大防止に伴い一時中止する場面もあ ったが、解除後はおおむね活動が再開された。	学校支援地域本部 設置中学校区数	62	62	各実施校から得られ た教育的効果(各実施 校に対して行ったアン ケートの結果「本事業 が順調に進んだ」「あ る程度うまくいった」と 回答した学校数)	33	39	b.順調	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動 が一時中止されたが、再開後は、おおむね活 動実績が増えたためおおむね良好と判断し た。	地域学校協働活動推進員の研修を充実さ せ、地域と学校が一体となって子どもを育て る、地域とともにある学校づくりの推進に取り 組みたい。

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

1 全体評価

令和3年度	
B 順調	<p>(1) 指標の「住んでいる地域や北九州市が好き」、「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合は前年度より増加し、地域・子ども交流事業参加者数も新型コロナウイルス感染症発生前ほどではないが、対前年度比135.8%と大きく伸びた。</p> <p>(2) しかし、「活動を通じて、仲間や友人ができた」とアンケートに回答した児童生徒は78.1%、「子育てに関する悩みや不安を感じる」という保護者の割合は目標である令和元年度の割合を上回るなど進捗に遅れも見られる。</p> <p>(3) モニタリング項目では、文化財の講座やスポーツ参加、観戦率は新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が遅れているものの、ボランティア体験活動者数のように増加しているものもある。</p> <p>(4) 主要事業は、「大変順調」から「遅れ」まで混在しているが、遅れは新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。</p> <p>スポーツ参加者数の回復が遅れていることやまだ中止されたままの講座もあるものの、児童・生徒に関する指標については大変順調に進行しているため、総体的には「B 順調」と評価した。 今後は、新型コロナウイルス感染症においてもつながりが切れないように、オンラインやホームページを活用した情報発信を行うほか、社会教育施設等への来館、スポーツ・ボランティア参加などが増加するよう努めていく。</p>

2 指標等

◎指標		現状値							参考	目標
評価	指標	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
C	「活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			48.3%	51.2%	54.1%	57.1%	60%	
		実績	45.4%	48.5%	37.7%					
		達成率			78.1%					
A	「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	89.7%	91.1%	92.6%				
			達成率			101.6%				
		中2	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
			実績	87.3%	85.7%	88.7%				
			達成率			103.5%				
A	「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
			実績	94.4%	—	95.4%				
			国(実績)	95.2%	—	95.5%				
			達成率			99.9%				
		中3	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
			実績	94.5%	—	95.3%				
			国(実績)	94.3%	—	95.0%				
			達成率			100.3%				

評価	指標	現状値		参考		目標				
		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
A	「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
			実績	71.9%	—	59.7%				
			国(実績)	68.0%	—	58.1%				
			達成率			102.8%				
		中3	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
			実績	59.2%	—	46.4%				
			国(実績)	50.6%	—	43.7%				
			達成率			106.2%				
B	「子育てに関する悩みや不安を感じる」という回答した保護者の割合 《北九州市調査》	就学前児童	参考値			現状値以下	現状値以下	現状値以下	現状値以下	現状値以下
			実績	35.50%	40.9%	41.0%				
			達成率			86.6%				
		小学生	参考値			現状値以下	現状値以下	現状値以下	現状値以下	
			実績	41.6%	39.6%	44.4%				
			達成率			93.7%				
		中・高生	参考値			現状値以下	現状値以下	現状値以下	現状値以下	
			実績	40.2%	43.6%	43.5%				
			達成率			92.4%				
A	地域・子ども交流事業参加者数(人) 《北九州市調査》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
		実績	55,370	14,390	19,538					
		達成率			135.8%					

A : 大変順調 (100%以上) B : 順調 (90%以上)
C : やや遅れ (70%以上) D : 遅れ (70%未満)

◎モニタリング項目

全13項目中

↗ 3項目

↘ 2項目

➡ 1項目

— 7項目

推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
—	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止				
—	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止				
—	○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止				
—	○文化財に関する小学校等への出前参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止				
↘	○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	428人	262人				
↘	○スポーツ観戦率	15.2%	14.9%				
—	○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	調査中止	小6 : 92.0% 中3 : 90.9%				
—	○家庭教育学級長向けアンケート満足度	調査中止	71.7%				
↗	○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数	市型622人	市型846人 国型17人				
↗	○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数	33校	39校				
↗	○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	2,329人	2,973人				
—	○新科学館の入館者数	実績なし	実績なし				
➡	○地域・子ども交流事業開催回数	818回	818回				

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

具体的な施策	番号	計 画			実 施					評 価 ・ 方 向 性					
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標		成果指標	R2年度		R3年度 進捗状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
							R2年度 実績値	R3年度 実績値		R2年度 実績値	R3年度 実績値				
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	43	家庭教育学級の充実	市民文化スポーツ局 生涯学習課	3,401	959	市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 179箇所 私立幼稚園、保育園 25箇所 直営保育所 4箇所 計208箇所	家庭教育学級の実施	140	208	家庭教育学級参加者数	3,672	11,118	b.順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況であったが、動画配信や資料配布など工夫して実施したため。	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、家庭教育を充実させるため、市民センターが主体となって家庭教育学級を実施・運営していく方法等について、関係者から意見を聞きながら、引き続き検討していく。家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、引き続き、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画等をインターネットで配信し、情報提供を行う。
	44	地域・子ども交流事業	市民文化スポーツ局 生涯学習課	10,055 の一部	8,662 の一部	講座数 192講座 開催回数 818回 参加人数 19,538人			地域・子ども交流事業 開催回数	818	818	b.順調	コロナ禍において、ウェブを活用するなど様々な感染予防対策を実施して開催できたため。	引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供していく。また、オンラインやウェブ動画を活用した事業を実施するなど、コロナ禍でも事業が実施できるよう工夫する。	
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)	45	伝統文化の発掘・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	1,127 の一部	1,033 の一部	《目的》 指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。 《実績》 指定無形民俗文化財保存団体(13団体)に対して補助金を交付した。	指定無形民俗文化財の保護を目的とした保護団体との協議	16	16	指定無形民俗文化財保存支援団体数	13	13	b.順調	保存団体への周知と適切な協議を行った。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当初計画どおりに行事を開催できず、申請金額を返還した団体もあった。一方で、各団体とも次年度での実施の意欲は高く、文化財の保存伝承の成果はあったと考えており、「順調」と判断	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き文化財保護団体の活動の強化を資する補助制度を継続していく。
	46	文化財の保存・継承	市民文化スポーツ局 文化企画課	4,438	4,224	《目的》 文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。 《実績》 文化財保護審議会の開催、指定文化財の保存修理事業への補助金の交付を実施。補助金の活用により、黒崎祇園行事用具修理や、永照寺輪蔵及び経蔵保存修理等を行った。	文化財指定及び、文化財の保存修理に向けた調査・協議	実施	実施	文化財保護審議会の開催	0	0	b.順調	国・県と連携して適切に活動した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で事業が実施できない団体があったが、次年度で実施できる見込みであることから、「順調」と判断。	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財を保護・活用していく。
	47	博物館セカンドスクール事業	市民文化スポーツ局 自然史・歴史博物館	1,202	1,685	・コロナ禍において団体予約のキャンセルが相次いだ。 ・感染防止対策の観点から、休館措置をしたり、開館していても、入館者数を制限したりしていた。 ・開館中においても、団体での体験活動等の実施人数を制限したり、飲食スペースの人数制限等を行ったことから、依然コロナ前に比べて大幅減のままだった。	学校団体誘致活動回数	96回	85回	学校団体誘致数 学校関係入館者数	312団体 14,108人	379団体 20,258人	d.遅れ	学校団体誘致数、学校関係入館者数ともに令和2年度よりは増加したものの、目標値の40%に達していないことから「遅れ」と判断。	オンラインを活用し学校教育との関連を深め、より一層の支援の推進を図る。 ・記念イベント等の実施や研修対象の拡充等の集客・誘致に資する活動の充実を図る。
	48	生涯スポーツ振興事業(旧地域スポーツ振興事業)	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	16,602	14,675	《実績》 2区で実施。全3回 ※新型コロナウイルス感染症の影響で大部分中止 令和3年度参加人数:262人	各区におけるスポーツ行事の開催数(定期的な開催)	4	3	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	428	262	d.遅れ	新型コロナウイルスの影響でイベント中止が相次ぎ、目標を達成できなかったため「遅れ」と判断。	「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するために、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く展開していく。地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創出するよう様々な団体と連携して生涯スポーツの普及・振興に努める。
	49	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	2,600	2,600	《実績》 全9クラブ 令和3年度会員数:1830人	交流行事や勉強会の定期的な開催	中止	一部開催	総合型地域スポーツクラブの会員数	1675	1830	c.やや遅れ	新型コロナウイルスの影響で事業の中止が相次いだ。会員数は目標に達しないものの少し増加したため、「やや遅れ」と判断。	引き続きクラブの質を高め、指導者や運営に携わる人材育成に努めるとともに、クラブ間交流事業を実施するなど、会員増加につながる効果的な事業の実施を検討する。
50	北九州マラソン開催事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	88,543	88,132	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じた上で、2022大会を開催するよう準備を行っていたが、急激な感染拡大の影響により中止した。	市民のスポーツ・健康に対する意識の向上	—	—	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)	—	—	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により2021大会、2022大会を中止した。そのため、活動指標、成果指標の評価はできない。	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、安全・安心な実施を目指すとともに、大会の開催により市民のスポーツ・健康に対する意識のさらなる向上を図り、本市の魅力为全国へ発信する。	

具体的な施策	番号	計 画				実 施				評 価 ・ 方 向 性					
		事務事業	所管課	R3年度 予算額 (千円)	R3年度 決算額 (千円)	令和3年度実績・実施状況	活動指標	R2年度	R3年度	成果指標	R2年度	R3年度	R3年度 進捗状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
				実績値	実績値			実績値	実績値						
(続き) ①シビックプライドの 醸成(地域文化、 生涯スポーツ)	51	ホームタウン推進事業	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課	68,000 の一部	54,254	《目的》 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、 プロスポーツの市民観戦事業や体験教室の 開催など、市民がスポーツに親しみむきかけ 作りを実施。 《実績》 スポーツ観戦率: 14.9%	ギラヴァンツ北九州等 のホームゲームの 招待事業の実施	継続的 に実施	継続的 に実施	スポーツ観戦率	15.2%	14.9%	d.遅れ	本市のシンボルチームであるギラヴァンツ 北九州の平均入場者数は所属するJ2リーグ で22チーム中14位と低迷。また、新型コロナ ウイルス感染症の影響により、親子招待事業 等による観戦者数や、スポーツ観戦率が目標 に届かなかったことから、「遅れ」と判断。	ミクニワールドスタジアム北九州を活用する など、「みる」スポーツの更なる振興を図って いく。
(3)学校と家庭・地域が つながる教育力の向上 ①家庭教育支援の 充実	52	家庭教育学級の充実 (再掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	3,401	959	市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 179箇所 私立幼稚園、保育園 25箇所 直営保育所 4箇所 計208箇所	家庭教育学級の実施	140	208	家庭教育学級 参加者数	3,672	11,118	b.順調	新型コロナウイルス感染症の拡大により、 対面型の家庭教育学級の実施が困難な状況 であったが、動画配信や資料配布など工夫し て実施したため。	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化し ている中で、家庭教育を充実させるため、市 民センターが主体となって家庭教育学級を実 施・運営していく方法等について、関係者から 意見を聞きながら、引き続き検討していく。 家庭教育学級に参加できない保護者への 取組として、引き続き、家庭教育力の向上や 子育て支援につながる動画等をインターネット で配信し、情報提供を行う。
②家庭・地域・学校の 連携促進	53	親力アップ情報発信	市民文化スポーツ局 生涯学習課	828	3,992	ウェブ漫画制作 6話 漫画冊子発行 1,000冊 アニメーション制作 1本 PRチラシ作成 など				アクセス件数	11,219	10,355	b.順調	令和3年度も新たなテーマを追加しウェブ漫 画の配信を行ったため。	家庭などに課題を抱え、子育て支援が必要 なより多くの保護者へ情報が届くよう、PR方 法に力を入れる。
	54	コミュニティ・スクール事業	教育委員会 学校教育課	59,673	20,898	国型・市型学校運営協議会の運営について 具体的な取組について示すプレゼン動画 資料を作成した。この資料を活用して広く周 知を図った。	学校運営協議会の 設置数(市型、国型)	市型 118校	市型 154校 国型 3校				b.順調	北九州市型学校運営協議会を実施する学 校が36校増加し、国が進めるコミュニティ・ス クールもその成果と課題の検証を進める等、 学校と地域が一体となって子ども育てる取組 が充実してきたと考えられる。	令和4年度より国型コミュニティ・ス クールの検証校が7校区(13校)に増加し、その成果と 課題を検証している。今後は、国型検証校の 成果と課題を各学校に周知して、地域ととも にある学校づくりを推進していきたい。
③地域における子 どもの発達・育成を 促す環境づくりと体験 活動の推進	55	地域で育もう「未来の種」事 業～市民太陽光発電所・市 民還元事業～	市民文化スポーツ局 生涯学習課	2,000	1,922	実施館 17館 参加人数 3,492人(延べ数)				参加者数		3,492	b.順調	予定は14館であったが、希望が多く17館で の実施となった。	市民センターを主体として、地域全体で子 どもの健全な発達・育成を促す講座や活動 に取組んでいるが、高齢化等により地域だけ で継続的な活動を行うことが難しくなってい る。 より効果的な事業となるよう、必要に応じて 地域の実情や課題館の把握・明確化、コー ディネーターとなる団体・NPOや企業の掘り起 こし、市民センターとコーディネーターのマッ チングに取り組む。
	56	地域学校協働活動事業	教育委員会 学校教育課	59,673 の一部	20,898 の一部	スクールヘルパーの活動や学校教育に地域 が参加するなどの地域協働活動はコロナウイ ルス感染拡大防止に伴い一時中止する場面 もあったが、解除後はおおむね活動が再開さ れた。	学校支援地域本部 設置中学校区数	62	62	各実施校から得られ た教育的効果(各実施 校に対して行ったアン ケートの結果「本事業 が順調に進んだ」「あ る程度うまいいった」と 回答した学校数)	33	39	b.順調	コロナ禍で、一部の活動が中止されてい たため、前半は活動が十分ではなかった。しか し、その後順調に回復しているため順調とみ なした。	令和4年度に地域学校協働活動推進員に 対しての研修を実施するなどし、その活動の 充実に努めていく。
	57	地域・子ども交流事業 (再掲)	市民文化スポーツ局 生涯学習課	10,055 の一部	8,662 の一部	講座数 192講座 開催回数 818回 参加人数 19,538人				地域・子ども交流事業 開催回数	818	818	b.順調	コロナ禍において、ウェブを活用するなど 様々な感染予防対策を実施して開催できたた め。	引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、 世代間交流や様々な体験活動の機会等を提 供していく。また、オンラインやウェブ動画を活 用した事業を実施するなど、コロナ禍でも事 業が実施できるよう工夫する。
58	青少年ボランティアステ ーション推進事業	子ども家庭局 青少年課	1,533	842	R3年度ボランティア体験活動者数:2,973人	「ボランティア出前 事業」参加児童数・ 生徒数	157	312	青少年ボランティア ステーションにおける ボランティア体験 活動者数	2,329	2,973	a.大変順 調	感染対策を講じながら、清掃活動など屋外 の活動を中心に約3千人に対しボランティア体 験活動を提供できた。 また、ホームページの充実や、地域の活性 化を図るためのボランティア活動に参加する ことができたため、	参加者への活動内容の変更、中止等の連 絡を含め、ホームページの更なる活用・充実 に努める。 また、ボランティアステーションの活動内容 を各局区に広め、ボランティアを派遣する場を さらに広げていく。	

資料3

事例発表



市民講座「ともがき」講座から市民活動への展開

～THE SDGs！市民活動者を育て・つなげて、地域を活性化する館長の取組み～

北九州市立 西門司市民センター 館長 渡辺 いづみ

1 生涯学習市民講座「ともがき講座」について

大学生と30代～80代の参加者が「共に学び、共に書く」を合言葉に「人生を書き残すことの意義や（聞き書き）ボランティアの重要性」を学ぶ市民講座。

門司は昭和20年に空襲、28年に大水害の被害に遭っている。また戦時中は、多くの兵隊が門司港から戦地へ向かうという兵隊宿营地としての歴史もある。

戦災、水害などを含めた証言記録(自分史)をまとめることにより、新しい「地域史」を誕生させ、市民の関心を地域に向けさせ、新しい地域活動に参加する動機付けを促した企画。

【ともがき講座の展開・連鎖】

- 1 令和2年9月：聞き書き講座（全3回）を開始。その後、自主活動へ移行
- 2 令和3年6月：証言集「聞き書きでのこす門司の記憶 未来への伝言」発刊
- 3 令和3年8月：世代間の交流を図る“地域で育もう「未来の種」”事業につなげる
- 4 令和3年8月：戦没者慰霊祭を開催（令和4年8月に第2回慰霊祭を開催）

2 世代間交流で未来へバトンを渡す取組み

“地域で育もう「未来の種」”：西門司たんけん隊 「じーもクラブ」（全5回）

昭和11年開校当初から歌い継がれてきた「西門司小学校校歌」の歌詞に、校区の人々の誇りや願いが込められていることに着目。歌詞の意味を理解し、自分が生まれ育った土地の歴史・地形の特徴・河川の環境を知るために、実際に歩いて「見て・聞いて・感じる」ことを企画したもの。

3 渡辺館長のプロフィール

平成20年東朽網市民センター館長に着任。22年「朽網の郷土史を語る会」を結成し、小倉南区朽網周辺の遺跡、史跡の調査・研究活動を開始。平成25年に北九州市市政50周年事業の一環で、郷土史「ふるさと朽網今昔」を発刊。25年平野市民センター館長着任。26年八幡大空襲を聞き書き記録する活動を開始し、聞き書きボランティア「平野塾」を結成。その後、平和学習への出前講演に大空襲体験者を派遣する事業や語り部同窓会などの交流活動へと展開しつつ活動を継続中。平成30年西門司市民センター着任。

4 西門司市民センターのその他取組み

- ・平和教育の取組み：家庭教育学級で戦争証言を漫画化した男性の講演会を開催
- ・チャレンジウォーキング（3か月のウォーキングキャンペーン）：歩数報告することで運動の習慣化につなげる取組み



9月西門司

市民センターだより

＜北九州市立西門司市民センター＞

〒800-0048 北九州市門司区稲積 1 丁目 3-1
 TEL・FAX (093)381-4927
 Eメール: dn-cc@ktqc02.net
 HP:www.ktqc01.net/moji/dnce/
 発行責任者: 渡辺 いづみ



西門司市民センター文化祭(展示部門)

文化の薫る 西門司作品展

11月3日(祝)、4日(金)、5日(土)

西門司市民センター 多目的ホール 他

昨年同様、今年も作品の展示会として開催することになりました。
 西門司市民センターで活動続けるクラブの方々や西門司地区にお住いの方々による作品の展示をします。
 文化の秋を皆さんと鑑賞できる催しを予定しています。

作品展示のみ
 ステージ発表は
 12月3日予定

主催：西門司市民センター・クラブ協議会

★詳しくは10月の臨時号にてお知らせいたします★

地域の方の 作品募集中です!

「西門司作品展」に
 あなたの作品を
 出展してみませんか?

お手持ちの作品で
 絵画・写真・手芸品など

必ず事前にお電話で
 お申し込みください!

申込締切り 10月14日(金)

お問い合わせは西門司市民センターまで

結果発表 チャレンジウォーキング

主催:西門司校区まちづくり協議会
 地域でGO!GO!健康づくり委員会

記録表提出者数

112名

今回もたくさん
 のご参加ありがとう
 ございました!

歩数ランキング

- | | | |
|----|-------------|--------|
| 1位 | 2,124,804 歩 | 73 歳男性 |
| 2位 | 1,781,127 歩 | 50 歳女性 |
| 3位 | 1,601,578 歩 | 83 歳男性 |
| 4位 | 1,587,974 歩 | 67 歳女性 |
| 5位 | 1,567,862 歩 | 72 歳男性 |

第3回目のウォーキング
 キャンペーン(3か月間)
 が終了しました。
 記録することが張り合
 いになり、とても楽しい
 とのお声を多くの方か
 らいただきました。

第4回目は10月からキャンペーンを実施する予定です!!
 その際はぜひご参加下さい

最高齢で
 頑張ったお二人に若さの秘訣も
 インタビューしてみました!

男性最高齢

92 歳

乾 信夫さん
 1,216,311 歩

毎朝4:30に起床しウォーキングを
 しています。その後公園で皆さんと
 ラジオ体操をして帰宅。
 健康の秘訣は…
 ・適度な運動をすること
 ・十分な睡眠をとること
 ・食事は量を決めて正しくとること



乾信夫さんが趣味で撮られた写真パネルを
 西門司市民センターロビーにて展示しています。
 お立ち寄りの際はご覧下さい。



9月《行事予定》

現在ほとんどの行事は『事前予約制』です
 ご来館前にお問い合わせください

7	水	親子サロン・あひるの会♪	10:00~12:00
16	金	子育て支援「ちひろば」	10:30~12:00
22	木	妊産婦・乳幼児なんでも相談	13:30~15:00
30	金	健康相談	12:00~13:00
30	金	西門司スマイルスクール(高齢者サロン)	13:00~14:00

申込み・お問い合わせは
 西門司市民センター 381-4927



GOGO 西門司
 チャレンジウォーキングも3回目
 が終わりましたが、お陰で気が付
 けは習慣になりました。
 一日一万歩を目指しているので
 出掛ける時は必ず歩数計をポッケ
 に!! 自分自身の健康の為に頑
 張っています。

女性最高齢

87 歳

安藤セツ子さん
 975,440 歩



R4年度 夏休み特別子ども講座

「じーもクラブ」 この夏は、北九州市にオープンした2つの施設を通して「科学」と「平和」をテーマに学習しました。先ず市民センターで事前学習をしてから施設へ電車やバスで向いました。

<p>第1回目 スペース LABO 【科学】 Science</p>	<p>7月27日(水) 参加者 子ども 15名 大人 8名</p>	<p>第2回目 平和のまちミュージアム 【平和】 Peace</p>
<p>泉 優佳里さん(科学技術コミュニケーション研究所)を講師に迎え、「フシギ」と思う気持ちが「科学の入口」だと学び、ワクワクしながらLABOへ出発!!</p>	<p>科学と平和は隣合わせ。 兵器の開発という「科学の視点」と「平和とのつながり」を子どもたちと共に勉強しました。</p>	<p>8月3日(水) 参加者 子ども 17名 大人 9名 学生ボランティア 6名</p> <p>元西門司職員の松山道子さんから門司の戦争の説明を受け、八幡大空襲・小倉造兵廠についても座学で事前学習。ミュージアムでは西門司オリジナルのクイズを解きながら、さらに深く理解することができました。</p>
	<p>この絵本で事前学習をしました ジョナ・ウィンター 文 ジャネット・ウィンター 絵</p> <p>1943年3月、アメリカが莫大な資金を投じて原爆の研究開発を極秘に行ったマンハッタン計画。完成した爆弾の投下により、日本は唯一の被爆国となりました。</p>	
		<p>2回講座を終え、子どもたちは絵日記を書きました。印象に残ったトルネード(竜巻)発生装置やプラネタリウム。八幡大空襲の360度パネシアターの迫力などが伝わります。</p>   <p>戦争と市民の暮らしのコーナーでは、すごろく遊びや一升瓶での米搗きを体験! 「昔はご飯を食べるのにこんなに大変だったんだね」「ラジオを見てこの箱なあに?」という声も聞こえてきました。</p> <p>平和のまちミュージアムへ見学に行く前、ヘルスメイトさんの手作りで戦時食「すいとん」の昼食を頂きました。</p>

子育て支援事業

ちひろば

9月16日(金) 10:30~12:00

参加費: 無料

場所: 西門司市民センター 多目的ホール

対象: 未就園児のお子さんと保護者 10組


内容: 新聞紙を使った色々な遊び

準備するもの: 汚れてもよい服・タオル
水分補給できるもの

申し込み受付 9月1日 10:00~ 西門司市民センターまで

主催: 西門司校区まちづくり協議会・西門司市民センター

親子サロンなどの参加は初めて... という方も大歓迎



【9月9日に終了します!!】
市民センターワクチン予約専用
窓口設置期間のお知らせ

◆令和4年9月9日(金)まで

【問い合わせ先】※コールセンターでも予約できます。
北九州市コロナワクチンコールセンター
0120-489-199 (全日 9時~17時)

令和4年度 門司区

子育てサポーター養成講座

子育てサポーターとは、お住いの地域の市民センターで親子の見守りなどをするボランティアです。無理せず楽しみながら、一緒に活動してみませんか。

・日 程: 11月1日~29日 (毎週火曜日・全5回)
10:00~12:00

・申込開始: 9月20日(火)~※定員になり次第受付終了

・会 場: 門司区役所大会議室・門司生涯学習センター


・定 員: 15名程度 ・受講料: 無料

申込み・問合せはお電話で TEL: 093-331-1883
門司区役所コミュニティ支援課 生涯学習係担当: 吉富・西

門司区 食生活改善推進員養成教室のお知らせ

食生活改善ボランティア募集!

食生活改善推進員(通称ヘルスメイト)とは、地域のみなさんの食を通じた健康づくり活動を進めるボランティアです。



◆対象 教室修了後、食生活改善のボランティア活動ができる方

◆日程 【全7回】概ね月1回 9:30~12:00 (調理実習時は13時まで)
令和4年 10/28, 11/10, 11/25, 12/23
令和5年 1/27, 2/17, 3/3

◆会場 門司区役所(門司区清滝1-1-1)ほか
※調理実習時は門司区役所別館(門司区清滝3-5-5)

◆内容 食と健康に関する講話、調理実習など

◆費用 無料(※教室修了後、食生活改善推進協議会への入会時に年会費が必要)

◆募集 先着8名

◆申込み方法 9月5日(月)からお電話でお申込み下さい。

◆申込み・問合せ先
門司区役所保健福祉課 担当: 栄養士 TEL: 331-1888

参考資料1

令和4年度第1回会議
グループワークのまとめ
(委員意見)

班	デジタル化の推進について、どのような学びや工夫が必要か	デジタル化の取組みをどのように「地域づくり・人づくり」につなげていくか
A班	<p>1 スマホカフェの取組みについて 認定証を発行して教える人を育てる、非常に良い取組みである。 ここからどのように広げていくのが問題 ・市民センターだけでなく、出向いていけるところを作る →困った時にすぐに対応できるネットワークづくり →個々がつながっていくことで、気軽に学べるようになるのではないかと</p> <p>2 スマホを持っていない人も参加できるきっかけづくりを考えていく必要があるのではないかと。</p>	<p>1 スマホカフェの取組み(好事例)の活用 ・市民センターに行ったついでに他の相談もできるという関係づくりができています ・学んだ人が教える側に、という学びから活動の仕組みづくり、地域人材の増加につながっている</p> <p>2 ネットワークづくり ・市民センター中心だけでなく、個々のつながりを作っていくような仕組みづくりができると、地域のつながりができていくのではないかと。</p> <p>3 地域情報の発信 ・地域のことを知るきっかけとなり、地域に関わってみようという人材が増えていく</p> <p>4 市全体でのデジタル化への取組み ・全館(市全体)で実施できるような仕組みづくりが必要</p> <p>5 学生の参画を増やす <u>若い人たちが市民センターに関わっていくことで、地域に関わるきっかけとなり、地域の活性化につながっていく。</u></p> <p>6 課題 <u>つながらない人をどうするか、どうやってつなげていくか。誰一人取り残さないためにどのようにつなげていくか</u></p>
B班	<p>1 子育て世代と高齢者世代のデジタル化 (1) 子育て世代 学校一斉メールで保護者はつながっている→地域に活用できないかと →緊急時使用のため不可→市民センターだよりやチラシを保護者へ配布してはどうか</p> <p>(2) 高齢者世代 子どもたちから教えてもらうことにより、双方にとってWinWinとなる 子どもと高齢者がつながるきっかけづくりとなる</p> <p>2 市民センターに来なくなる(ここに来れば情報が得られる)ような工夫 (1) 広報の工夫 アナログとデジタルの両方が必要 デジタル:市民センターのLINEを作る アナログ:掲示板の活用</p> <p>(2) 認定証の発行 スマホカフェで発行した認定証は励みになる</p> <p>3 スキルに応じた講座の企画 できる人には次のステップの講座を提供する</p>	<p>1 高齢者世代(世代を超えた学び合い) 子どもたちから教えてもらうことは、双方にとってWinWinとなる</p> <p>2 最初のきっかけは「リアル」 「リアル」のチラシなどから、まず市民センターにきてもらう 市民センターの職員の地域愛、館長の心構え・スキルが大切</p> <p>3 課題 ・スマホの使い方を知っている人にどうやって来てもらうか スマホの使い方を知っている人(できる人)がセンターに来て、自分の技術を他者へ還元できるか <u>・できない人とできる人をどうやってつないでいくか</u></p>
C班	<p>1 社会的孤立を防ぐために学びの提供が必要 ・デジタル化はいち早く取り組むことが必要である ・地域に温度差があるため、まずは出来るところから始め、長く・繰り返し実施する</p> <p>2 内容の充実・工夫 ・使える技術より学ぶ内容が大事である ・デジタル化の便利さだけでなく、安全面(リテラシー)の工夫も大事</p> <p>3 市民サービスの向上 使いこなそうとする人が増える</p> <p>4 人材育成などの仕組みづくり ・環境や人材などの条件も必要 ・一人一人機種が違うため、教える人を増やすことが大事 高齢者で使いこなせている人もいる 教えるということで企業も貢献できる</p> <p>5 学びの成果・効果の実感 自分にとって、プラスになることを経験する →嬉しい→さらに学ぶ(学びの継続)</p>	<p>1 デジタル人材育成の可能性・デジタルの強み 「ちょっとできる人」ができない人に教えることができる→「デジタルの強み」</p> <p>2 教える人を増やす→「地域づくりの可能性」 教える人を増やすことで、まき込み、地域づくりにつながる</p> <p>3 安心して受講できる身近な存在(学んだ高齢者が教える)の活用</p> <p>4 学生の活用・大学の地域貢献 「デジタル」は若い人(学生)が、特別な知識が無くても社会貢献できる分野 →<u>学生の自尊感情の醸成→地域連携(若い時からの経験が将来の人材につながる)</u></p>